

SIMAC

1976年度夏期

合宿報告



信州大学

伊那松本山系部

夏山合宿を終えて

古橋孝夫

今回の合宿において各人がいろいろな形で多くのことを学んでもらえたと思う。新人については技術的なことに関し、上級生はより高度な技術(各シーズンに有効な技術)を知る機会をつかんだと思う。そして Party, Leader ship の問題もしっかり、これらのいろいろな要素を複合化して入山するわけであるが、新人はともかくとして上級生においてはこの点はハッキリとわきまえてほしい。このことが山行を行なう上級生たるところではないだろうか。「山登り」これが単なる技術追求ならこんな問題は大きく考えられないであろう。が、我々は決してそうではなく、広い形で登山を見つめていると思う。技術面の追求も決して否定しているのではない。その内に秘められた危険を含んで行なわれるということをはっきりと認識して行動を起こしてほしいということである。組織が何かを行うには事前の各人の積極的な態度を強く要求されるものである。しかしそれが義務的な形で行なわれるのは少なからず各人考えることである。そこにおいて Party については組織を有効に動かすことが要求されるなら、多大の問題というか、その類の物があるような気がする。この後 冬山・春山と我をけむかえてゆくわけだが、その意味において積極的な各人の取り組み、そしてそれを結集した大きな力となる、山行を実行して行ってほしい。そこにこの合宿で考えたことを行動として志向していかねてもらえるよう期待す。

夏山合宿 Leader 古橋

メンバー及び係分題

C.L.古橋 (A4Ⅱ)

S.L:二俣 (L2Ⅱ)

装備:下田 (A2Ⅱ), 村田 (A3Ⅲ), 春田 (M1Ⅰ)
羽鎌田 (A1Ⅰ), 田中 (A1Ⅰ)

Esseni:片山 (A2Ⅱ), 師田 (M3Ⅲ), 大塚 (A1Ⅰ)
塚谷 (A1Ⅰ)

医療会計 渉外: 二俣 (L2Ⅱ), 池田 (A1Ⅰ)

記録気象: 藤本 (1Ⅰ), 中村 (PM1Ⅰ)

Old face: 吉田 (L4Ⅴ), 品坂 (A4Ⅳ)

行動記録

8月19日

3:55 朝食

5:10 徳大忠発 (マイク1, タク1) 車の中で寝不足を取り返す。

◎6:30 扇沢着

7:30 〃 麓 (トローリー)

7:50 黒田ダム 到着

①8:05 トンネル出口 出発

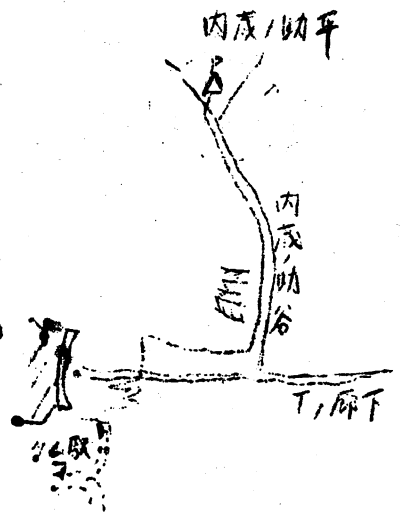
8:55 一本: タムと内蔵助舎 中舎の間
(10分) 皆さん 元気

①9:55 一本: 丸山東壁の下方 朝食
春田 かつまって転倒し目のふちに受傷
ノカネを刺す。皆さん やや元気 (10:20頃)

◎11:25 一本: 内蔵ノ助谷
(10分) 中村カバテで予定が早く進める。
その他の者がついて元気

①12:40 内蔵ノ助平着

1年生 全員バテバラ。虎の午の月でした。(藤本 塚谷)



8月20日

- 5:00 朝めし ラーメンでした。
6:20 真砂へ向けて出発
7:10 一本
8:10 ハンゴ谷乗越し着く。えら〜
8:25 ハンゴ谷乗越より降り始める。
10:00 真砂テント場着。ハテハテになりました。ハイ。
B.C. 設営
11:15 春田、中村を残してあとの者は別山平へ向う。
三坂、下田は長次郎雪溪の飯架。
12:35 別山平着。昼めしを食う。
* 剣沢を登りながら尾根や谷の名前を教わる。
13:05 下りはじめる
* 途中 前剣東尾根の「ルンゼ」出合付近で。
キックステップとグリセートの練習。
14:10 B.C.着
今日は旧雲の多い天気でした。夕方少し雨がパラつく。
今日もしんどい1日だった。(バカマラ)

8月20日 長次郎左僕見物 三坂、下田

- 11:10 B.C.発
ベッコベッコの雪溪は途中で切れているというが、
割れている所が多い。雪溪自体は例年より2m
位厚いとか(三坂氏談)
12:45 熊の岩(こゝで長野の6峰の登攀を見る)
上部の様子は降りてきた長野部員に聞く。左僕は見
えるようにカレが出てスタスタ。右僕は途中に
一カ所切れている所があるが容易にまける。

14:25 B.C.着

(下田)

8/21 Aパーティー (L. 師田, 下田, 大塚, 塚谷, 春田, 三坂, 古橋)

5:00 朝食 5:30 BC 出発 熊の岩を長次郎右侯側から登り 上田長野のBCまで1ポツナ巻. 熊の岩より左侯の雪渓をキックステップで登り, そこで雪上訓練.

10時過ぎから Bパーティーといっしょに一年生を中心にとしたストップ訓練. 普通に戻りからのストップのあとグリセードの失敗を想定してのストップ訓練. しかし一発できれいに止まるだけ上達した者はまだいない. ストップ訓練のあと また A, B パーティーに別れて長次郎谷から剣本峰をめざし 11:35 雪渓上部のクバ

スを出発. Aパーティーは一年生が一回ずつストップをやって すぐ 長次郎のゴルに出て あとは岩稜から本峰に 12:05 到着, メシの残りを食べながら展望がよかったので 周囲の山を地図とてらして調べた. 12:30 頂上発. 来た道を雪渓はグリセード, 積すべりをまじえて下降. 13:00 熊の岩 上田長野 BC着.

また長次郎雪渓下降. 主にスケータリングと下部はランニングで30分程で BCへ (14:30) (春田)

Bパーティー (L. 村田, 片山, 羽録田, 藤本, 池田, 二保田)

5:30にBC 出発 長次郎雪渓に入り 熊の岩から右侯へ行き 上部で雪上訓練. 新人合宿でやったはずのことがなかなかうまくできない. とくに直下降が バランスをくずし スリップ多発. その後 A, B 2パーティーを合でストップの練習. ひざで止ったり, 羊身になっているものが多い.

11:40 休けいの後 本峰を目指し出発

12:10 剣岳 山頂 天休上

12:30 下山開始 グリセードで左侯を下降

13:30 熊の岩で1本

13:55 " を出発

14:10 BC着

(藤本)

8/22 Aパーティー (Lニ1号 三坂 下田 (古橋) 藤本 中村 塚谷)

○のち①のち◎

5:00 BCを出発し 熊の岩まで / ヒッチハイク (6:35に着く)
 6:50 に熊の岩を出て 初めは 9:20までスクアウトの練習
 9:40 から 11:40まで Bパーティーと入れかわりにスク
 ス通過の練習。(これより古橋さん Aパーティーに加わる)
 11:45から 本峰を目指して 1年が交代にTOPでキックス
 テップ直登 岩場に入ってから下田さんTOP 12:25到着
 12:45 下山開始。下に人がいるので 落石しないよう慎重
 でしたが、それでも石は落ちてしまいました。

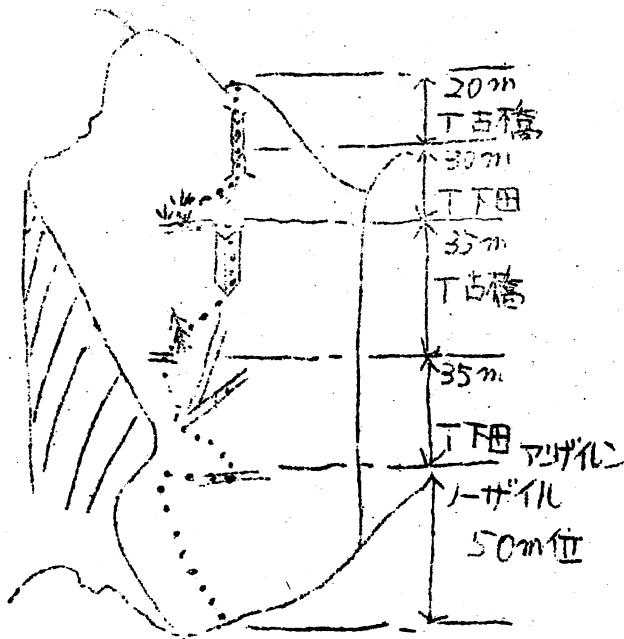
再び雪渓のところに来てグリセード

キックステップで降りたのが早いくらいでした。スマホセン
 中村以外はほぼスムーズに下山で 行ったかに 中村
 1人で足さひつぱり) ミジメです。

熊の岩に着いたのが 13:53。ゴメンナサイ。ここからエッセ
 ンが先に降りて Aパーティーの最後が私が BCに着い
 たのが 15:35

上田長野のところで お茶を頂きました。あいさすは
 雪上訓練は 日の当たらないところは雪が固く苦しかった。
 行く途中 尾根 谷 沢 etc の名前を教わった。(中村)

8/22 6峰 c face RCC route (L古橋 下田)



取付 14:20
 アザール 14:40
 終了 15:20

ハーケンが少なく
 気持が良くない
 逆ってしまいそう
 岩が堅いが浮石も
 少なくなかった
 核心は2ピッチ目の
 四角状の所でした
 (下田)

8/22 剣穂線ルート (L師田 片山)

取付 2:30 終了 2:50
ルート図で4ピッチ目のフェイスからザイルを出し、T片山で35m. コンテでハンドトラバースの下まで行き、T師田で30m登り、あとはザイルを巻いてCフェイスの頭へ出た。

。あつないルートだった(片山)
。ノーザイルで行こうと思ったが、ザイルを出している人に失礼だと思い、ザイルをつけてみた。(のがみと)

8/23 六峰Aフェイス魚津高ルート (L吉田 片山)

取付 12:02 終了 12:28
1ピッチ目 T片山 2ピッチ目 T吉田 Aフェイスの頭までコンテ。あけなかった。(片山)

8/23 源治郎パーティー (L師田 片山 羽鎌田 藤本 塚谷 吉田)

5:25 真砂が沢 BC 出発
5:55 源治郎尾根に取り付く。恐いルンゼを登る
6:05 ルンゼの下オで 1本
7:45 一峰に到着。非常にキビシイ登りだった。
8:05 二峰に到着。アップザイルの用意をする
9:25 本峰頂上。霧で何も見えない。そして寒い
10:00 下山。グリセードで壱溪を下る
10:40 熊の岩到着。上級生が岩を登るのを見学
13:30 BC 到着。(塚谷)

8/23 ハッ峰下半 (L二保 下田 三坂 春田 池田 大塚)

5:25 BC 出発 — 6:20 1,2峰間ルンゼに取り付く。なるべくガレをさげながら登る — 7:23 2峰に付く。2峰から3峰まで。だいたい稜線ぞいに行く — 4峰は三、窓側にまいて、アップザイルで下る。 — 9:03 5峰に着く — 5峰からの下りにキムニーがあった。(三坂さんから頭を使って降ろと言われ、手と足を使って降りた) — 5,6のゴルに下り 9:57 熊の岩に着く — 10:18 熊の岩を出発 — ガスの中を登っていると源治郎パーティーが下て来た。何という差が!! — 11:13 本峰着。もう本峰

もう回目なので"何の感重きなし。1/2ク本山峰登一ノス
 の甲母なので"ピッチを短かくしてグリセードで下る——
 12:07 熊の岩着 熊の岩でしばらく上級生の登攀を
 見学。12:57 下山開始——13:35 やっとB.Cに着く
 もう疲れました。ハイ。(じせ田)

8/23 ハッ山峰 下半パーティと1.2山峰固ルンゼまで
 中村体調不良のため古橋さんと直接熊の岩へ向

6:20 1.2山峰固ルンゼ出発

7:20 熊の岩着

7:40 グリセードの練習

8:00) 長治郎の右岳を少し登る

8:20

8:30~9:00 グリセードで熊の岩まで下降

13:00 BCへ向かって出発

13:50 BC着

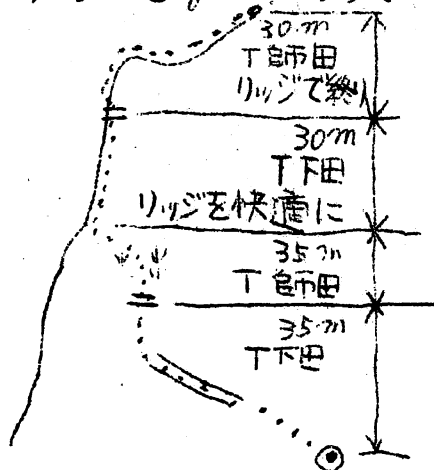
(中村)

8/23 C face 剣稜会パーティ (L=侯, 黒幕, 三坂)

熊の岩でみんなと別れた後取り付きへ。12:30 C face 基部
 80~100m ナーザイルで登る。12:45 アンザイルに 13:25 終了
 13:50~14:15 熊の岩。14:45 BC着

感想→2.3P目は1ヶこうもろかった。久し振りに楽しい岩登り(侯)
 アンザイルにするまでが疲れた(三坂)

8/23 B face 京大ルート (L=師田, 下田)



12:35 Bface 基部 30~40m ナーザイル

12:45 アンザイルに

13:25 終了

13:40 熊の岩 C face パーティとBC

14:45 BC着

感想→おもしろかったのは3と4Pich
 でした。あとは岩き石が多く……
 でもリッジは高度感がありなが
 らかでした。(下田)

8/24. 予定では A 源治郎 B. ハツ山峰上半.

● → ◎ → ○ → ●

8:40 B.C 出発 → 熊ノ岩 10:30 → 11:05 長次郎の洞
11:15 → 熊ノ岩 12:10 → 12:50 B.C 着

8/25. ハツ山峰上半 (L. 師田 羽鎌田 藤本 塚谷 三井 三坂)

B.C 6:20 → 56の洞 → 六峰 → 七峰 → 八峰 9:20
◎ ① 浮石多し 岩稜 ① 70m以上見える
→ 長次郎右俣 → 熊ノ岩 10:00 三井 塚谷 黒四へ下山, 各パーティ 登山

→ 14:35 B.C.
右俣の洞

☆ (フェイス RCC ルート (L. 片山, 羽鎌田))

Top はすべて片山 12:25 ~ 13:25

I ピッチ ホールもたくさんあるし フリクションもよくきく息のきれる
(305m) フェース。

II ピッチ 階段状の岩場をのぼり浅い凹角にはいる。ここは丸ホルト
(35m) かこまかいがなかなかにもしろい。

III ピッチ ルンゼに入りかけるが湿っていていやらしく右側に迷げる。
(35m)

IV ピッチ シアなフェースを3mのぼり右からまよりにして終了点へ。
(20m)
感想 みもしろく、楽しい岩登りだった(いかマダ)

☆ (フェイス 剣稜会 ルート (L. 吉田, 塚谷))

Top はすべて吉田 12:25 ~ 13:30

I ピッチ ノーザイルで
(30m)

II ピッチ ハイマツが多く容易

III ピッチ 快適なもの

8/25

Ⅱピッチ リッチの所でかなりつまる。高度感懐し。

Ⅲピッチ 何でもない所

感想 高度感で目もくらみ足もふるえる。これを克服
しなくては(ツカグニ)

^{八峰}
☆ Aフェイス 魚津高ルート (L 師田 藤本)

10:40 ~ 11:40

I (30m) おぼつかろさなく、少し左へおける。そして易くなる。

II (35m) テラスより少し登りカニテを右へ登く 凹角状は快適

III (20m) やさしい登り

感想 最初の本着で緊張。手はフリクションに頼る度胸なく
腕の力で登。アイトはよい。ルートが短かかったの
でもう一本登りたかった。(フシモト)

源次郎 (L 古橋 二俣 春田 中村 辺田 大塚)

① → ②

BC 6:20 → 乗 9:10 1峰 → 9:50 2峰 → 11:46 本峰

→ 12:45 熊ノ岩 途中アツアツサイレンの所で1時間待た

^{六峰}

☆ Cフェイス 剣稜会ルート (L 古橋 春田)

13:20 ~ 15:00

I: リッチ脇の小ルンゼを行く

II: 別になし

III: "

IV: トラバース → 頭へ

感想 下部は大きな浮き石
が軽かった。上部は
ホールドによる岩もろく
はかれそうに緊張
した。
登るに速度がそろかた
ようた。(ハル夕)

8/25

☆ ^{八ヶ岳} Aフェイス 魚津高ルート (L. 保. 池田)

I: 岩がもろく苦労する。

II: 快適

III: サイルが足りなく(登りにくい) 寒かった。

☆ ^{六ヶ岳} Cフェイス RCCルート (L. 三坂. 大塚)

Topは3へ3坂 13:20 ~ 13:45

I (40m) 階段状のスラブ。湿っていたのでスリップしないよう気を付けた。

II (15m) 凹角は一番こわかった。

III (35m) 浮き石が多くホールドとスタンスに気をつけながら登った。

IV (15m) なるてこやないところ。浮き石が↑増えてきてなって

感想: 4L以外初めて。ヤバいので以後右へ行った

ワクワクしたが、IIピッチ目は、あがいてみたよ(三坂)

凹角で足がガクガクした。(オオツカ)

☆ ^{六ヶ岳} Dフェイス 富山大ルート (L. 吉田. 片山)

①→② 9:22 ~ 10:42

I: T. 片山 40m

II: T. 吉田 35m もろい。バンド。

III: T. 片山 35m 先行パーティーが3つあり

IV: T. 吉田 40m 長い間待たされた。

感想: 思ったよりつまらないルート(カタヤ)

8/25

Dフェイス久留米大ルトおチンネ左稜線
(L.高橋.下田)

8:40~11:00

I Top 高橋

II. T. 下田 少右へ寄り過ぎ中途で絶壁がトラス
とす

III. T. 高橋

IV. T. 下田 II級のスラブをアングレンにてザイルで

チンネ 12:30~16:20

途中 T5で20分位休憩

8/26

● 沈殿

9:30 土田.長野下山途中寄る。

8/27

○ 三ノ窓雪溪 → 三ノ窓 → 池ノ谷のヨル

① → 長次郎右保下降

(L.下田.師田.中村.大塚.塚谷.藤本.古橋.三坂)

B.C. 5:20 → 8:05 三ノ窓 8:15 → 8:46 池ノ谷のヨル

② 古橋.諸田.チンネ

→ 9:25 熊ノ岩
クセ+

○ 平蔵谷パーティー

(L.片山.二保.吉田.羽鎌田.池田.春田)

① B.C. 5:20 → 7:55 平蔵谷のヨル 8:05 → 8:30 剣
平蔵谷凍つていてよく歩けた 本峰

8:50 → 9:25 熊ノ岩

8月27日

• C face RCC route (L 師田, 中村)

Topはずと白田と、中村はツバイ 感想

取付 11:20 — 終了 12:28

初めの岩登りで不安だったが、天気が良く最高。(中村)

• A face 魚津高ルート

Top 吉田(L) — 春田 — 羽金兼田

取付 10:00
終了 11:18

1ピッチ目

ルンゼに浮き石があり気をツカウ

感想

ピッチ的な難しにはRCCより魚高のほうが高い

2ピッチ目

カンテがおもしろかった

(いかマダ)

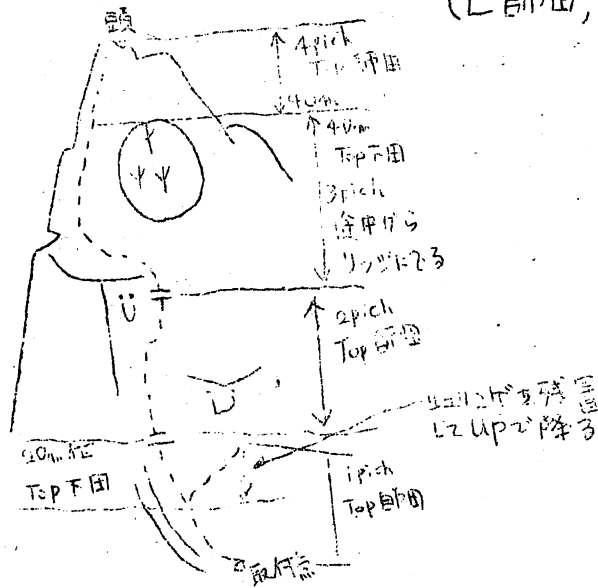
3ピッチ目

草付 & フツツ

• D face 富山大ルート

(L 師田, 下田) 取付 2:35

終了 3:40



1 pitch 目の途中まで右へ行くと下田が正境の 1 pitch 終了のフラスコ行き 師田 所が Up で降りになる

感想

思っていたフリ口未だなかった。(下田)

毎に付いたものに疲れた。今このルートで手が届く。(師田)

C face 剣橋会ルート

(L下田, 藤本)

取付 10:10

J-ガレで途中まで登り、テラスで1時間45分待つ

終了 13:20

1 pick目

やや微妙なスワンス。一番毛ツバ新

感想

2 pick目

何もなし、おしむが甘い

C faceの頭から下ってくる途中

3 pick目

楽に引けた。

道をまちがえて、アツアツを穿

4 pick目

石壁でずたもつて、急な急な行く

非常に危険だった。他のパーティー

5 pick目

バンドトラバースの所まで、おしむのと

もつてくる。C faceを登り終りに

ほつた。

C face RCCルート

(L=保, 三田)

取付 12:00

終了 13:00 トップはすべて保

J-ガレで途中まで戻る。

1 pick目

快適なフェース、ホールドもたくさんありしかりしている。

感想

2 pick目

岩壁に断があり、そこをトラバースし、凹に登りかける。J-ガレがエサとどかす遠干でセレー

天気よく、暖か

快適な岩登りが

できた。

岩は割れずかた

か、こういう岩なら

楽しい。(三田)

3 pick目

このルートが1番苦労。しかし岩がしかりついているので楽。

4 pick目

4ムー内を登り終る。

ニ保右側の壁へ入りついたら4ムーへ逃げる。

8月27日

チニネ北条・新村 ~ g4ムニー C.d クラック

上古橋 自由田 取付 8:50 — 終了 10:20

中央4ムニー右側, しばらくトザルで行く. ルンゼ状のところで
行きがかり. 微妙なところでアンザインする.

1pitch目 Top 自由田 40m

ルンゼを10mほどたどりテラスより右手のサニテに出る。
サニテの上のテラスより, そのまま face に free で取付いたら
ハンクができた。ここが 5m くらいは 5m のクラックになるつもり
でこす。(5m くらい) との間に 4 角状のところにビシ

2pitch目 Top 古橋 25m

4角状の物おりのところをカラビナで越し, そのまま 10m
も行くと中央バンドに出た。
そこからコンテまで 4ムニーまで行く。

3pitch目 Top 自由田 40m

g4ムニー C.d クラックともさける問題はよくする。
d クラックへかける所をビシ。

4pitch目 Top 古橋 30m

d クラックに入り そのまま チニネの頭へ

感想

あっけなかった (自由田)

まったく重复的なものをのびと君に取られ

とんだ計算がたいをしてしまった。

ついていくかや, とびかたりにごめんな。

3年バリのチニネ楽しませてもらいました。

(古橋)

A face 中大ルート

L 二保, 片山. 取付 10:10
終了 11:30

1pick目 Top 片山 40m

スタンス, ホールドともにすくなく, じわじわのぼる

2pick目 Top 二保 40m

どこどこにも3箇所がある

感想

まゆめが!! ビアだった。僕のフリーの限界をこえている。
1ピッチ4目は実に緊張しました (片山)

D face 久留米大ルート

L 二保, 片山. 取付 2:10 — 終了 4:15

1pick目 Top 片山 40m

よいペースがなくてビビるのにこまった。

2pick目 Top 二保 20m

3pick目 Top 片山 40m

4pick目 Top 二保 40m

5pick目 Top 片山 40m で D face の頂

感想

なかなか楽かった (二保)

ほくもどろ思いました (片山)

8月27日

A face 魚津高ルート

(L三士坂、土塚后)

取付 10:30

終了 12:00

三士坂カンガレツチ登った所で先行パーティーが登るのを待ったので取付ぶかなり待つ。

1pitch目

みんながつかまる所で、栗の条づまる。
しかし土のほとり難しくはなかった。

2pitch目

おし登ってまわりこんだ所にあるさけ目の所がこわかった。

3pitch目

別に難しい所はなし。

感想

おもしろかった。でも岩登りはおもしろい。

(土塚后)

8月28日 ●10

下山 (全員、黒田より帰る)

8:00 雨のふる中、テントをたたみ、パッキングをして、
真砂子沢出合を出発。

10:55 全員 ツクを出してハツゴ段乗越を越して
内蔵、助平に出る

12:20 内蔵、助平の出合に出る。

13:20 ダムの下に到着

13:50 最後のドエライ登りをなんとか登って
黒部ダム駅への入口に到着

トローリー → 扇沢 ~~大田~~ ~~大田~~ 大田 ~~松本~~

感想及び反省(個人)

合宿で1番の感激はやっぱり剣の岩を登ったことです。あの高度感はこちらにありませんでした。

合宿の初めに比べて雪に少しは慣んできて、グリセードもいくらかまいになりました。初めのうちは先輩たちのところまで滑るのに腕が疲れてしまい途中で休まなくてはすべしませんでした。そのうちに腕が疲れなくなりました。

ですからおれにとるとはこの合宿は有意義なものでした。(大塚)

まづ初めにリーダーや他の部員の皆さんに大きな迷惑をかけてしまった事を謝らなくてはなりません。体調が悪く事もあったけれど甘えすぎたのは。申し訳ありませんでした。

また感想に入ります。団装が重かたせいもあるけれど何よりも私の精神がひたるんでいて入山は非常にしんどかったです。体力をカバーする、体調をカバーする精神力がなかった。3日目の行動日の雪上訓練の時に沈没していたため翌日の長次郎谷左侯の下降はどうしようもなく怖かった。それに熊の岩からB.C.までの帰路がこゝまた非常に怖くて。とうとう最後までまともに帰れなかった。

初めのゲレンデ以外の岩登り。取付まで行くのに師田さんについて歩くのが必死でゼーゼーなのでした。か、取付いてしまうとあと岩壁だけしか目に入らなくて青空にむかって登ってゆく感じが最高でした。でも帰って来る時落ちて……何と口でいったらいいのかわからなけれど怖かった。(中村)

新人合宿の時は比較的トレーニングをしていたのに今回は合宿前は2週間程何もしていなかったのが合宿に入る前から不安であつたが案の定初日、二日と重荷が非常にこたえた。一般トレーニングでは重荷対策にあまりなるとは思えないが、今後何らかの重荷対策を考えてトレーニングしてゆくべきだ。

三日以後の雪上訓練は比較的充実していたと思う。僕としてはストップの型が少しではあるがつかめてきたように思う。またグリセードでは多少調子に乗り過ぎた点もあるのを反省している。僕にかぎって言えば長次郎左侯ばかり往復していたのでもう少し別の谷にも行きたかった(平蔵は行ったが)。源治郎尾根、ハツ拳下岸の岩稜歩きは少々もの足りなかった。また岩ももう少し登りたかった。(池田)

今合宿も苦しい面が大きくて山を楽しむことなどできなかった。特に合宿前の健康管理を思ひ、入山準備の日に入山中がつかつた。

少し少ないような気もしないではありませんが、そのかわり 他の事を せめて多く
もっているのだから別にそんなことをとも思いません。

- ・ 毎年同じ事をやっていて マネリというのは どうせありますから 同じ目的をもって
同じ所へ行くのだから それは あたりまえといえばあたりまえで マネリを感じずに
目的を達成できれば、それに 二つ三つは ないかもしれませんから マネリなどは
個人の考え方の問題で合宿の目的の前では 実に小さい問題なっています。だから
合宿の形態はこんなものでもいいのです。目的さえ達成できれば。
- ・ 「合宿に参加できない部員、部員に参加できない合宿」というのは もっと考える
べき問題では。

(二俣勇司)

各係の反省

★気象

天気図をまだ完全に書けない私が 気象のチーフをやるとして... 書けない私が
悪いのですか

天気図は だいたい書けていたけれど 当日の 観天望気と翌日の 天気予報につい
ては ほとんどの者が 融けていない。一年の書いた 天気図を見て 上級生が 予測す
るといったことが 天気図を見て いかにも 予測するかと いうことを 聞いた
り また 融けたりする方が 望ましい。(中村)

★ESSEN

ベツにないが、途中入山、下山の人の関係で 18人分の Essen を 14人であげた
わけで 結果的には 途中下山するはずの人は来ず、ほとんどの日 18人分を 14
人で食べていたのが 量的には 充分であったわけであるが 入山時の 重さや
コン包的めんどうさを考えると 途中入山はなるべくさけて 全日入山して
ほしい。全然 入らないよりは 良かったです。(片山)

★装備

- ・ 合宿前に 装備の点検 及び 数の確認を怠ったので 直前に あつたことは 非
常に ますかた。
- ・ 団装が 少い故 個装を 借りるということは 毎回の ことなので、少しずつでも
とどめるべきだと思つた。
- ・ 今回買った ハーケン は 厚刃 だったので 剣さの 使用に 適さなかつたことは
手落ち だった。
- ・ ガソリンの 使用量は もう少し 少なめで よかつたと思つた。(今回は 旧 1台 500cc
の 計算)

・装備の借り出し返却は時間の不徹底などがあったがまあまあ良かった。
(下田)

☆会計・渉外

- ・係のタイムで計画書と実際に集めた金とに差ができてみんなに迷惑をかけた。ごめんなさい。
- ・マイクロタクシーの予約は前日までの人数が確認でまずこまった。(二俣)

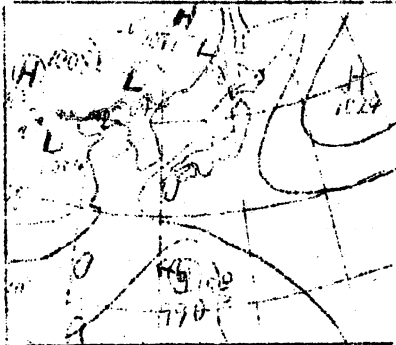
☆医薬

- ・学部と保健管理センターとの話し合いとやらで、えらくめいわくしてしまっただ。一度話しに行かなければならないでしょう。
- ・もらった薬をそのまま持っているだけだが係によるチェックもするべきでしょう。
- ・使用上の注意も確認しておかなければならないでしょう。(二俣)

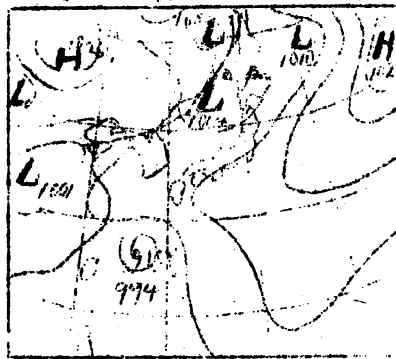
☆S.L.

- ・立場をはっきりせしめなかった。どうも軟弱でこまる。
- ・事前のC.L.との話し合いがほとんどなく、また自分の考えもさしめて不明確か
…… いけないね、これでは。
- ・テント割りなどで不満もできたようですが、人によって考え方や好みもちがうし、第一もともとない知恵で考えられるのだから、これぐらいかまへん以下さい。
(二俣)

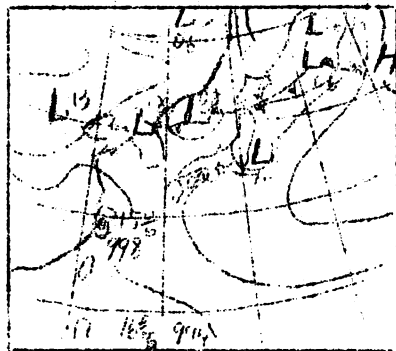
夏合宿中の気象解説



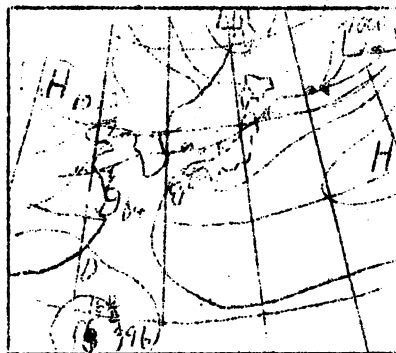
19日 日本のほろが東方にある高気圧のため晴れ時々曇りといった天気だった。明日はしだいに下り坂と予報した者が多かった。



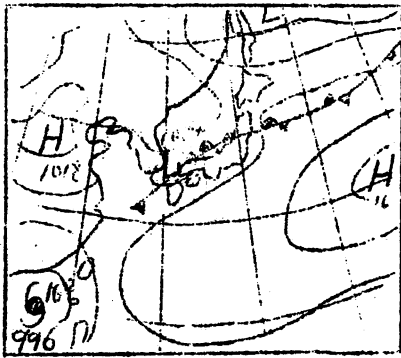
20日 Lが近づいているため雲が多かったが雨は降らなかった。剣岳も上部はガスがかかっていた。天気予報は皆まちまちであった。



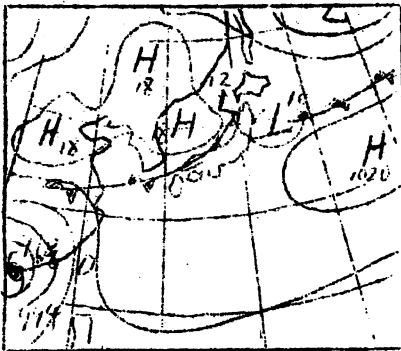
21日 南東のあたりに弱いLがあるが午前中は快晴だった。立山・富山方面はガス。皆天気予報ができてなかった。ふうた ラジオは明日①といっていた。



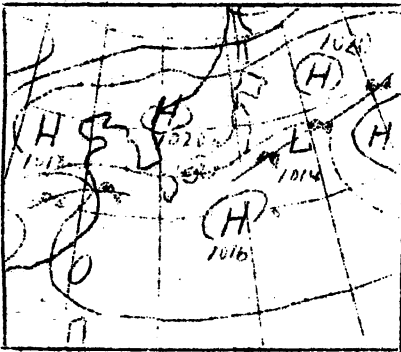
22日 前線が日本の北部にあるが中部地方以南はよく晴れている。皆明日は①と予報している。



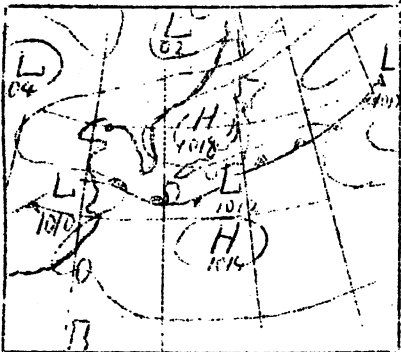
23日 午前中 2800m 程の高
 はカスただ。
 後線は風が強い
 正午頃より晴●大団かて
 てきて 4:30頃には①
 東方に雄大積雲が発生して
 いた。



24日 早朝は● 8:20頃◎
 長次郎上部はガス
 11:55● 12:15頃◎
 いうまでもなく前線の
 ための雨。



25日 ①ときとき◎ 積層雲
 が多く、やや涼しい。
 午後からは曇、時々。



26日 ● 午前～正午頃には
 前線が通過して南下
 していた。
 この日は沈黙だった。

夏山合宿の報告書
(創刊号)

S.51.10.17発行

(130部)

非売品

信州大学山岳会

伊那松本山岳部

編集 松本にほひまな一年生

印刷 松本にほひまな一年生